

COVID検査用の屋外テントを撤去 *Yokota removes outdoor COVID testing tent site*

March 25, 2022

374th Airlift Wing Public Affairs

2年間の大半をそこで過ごしたテントが、手際よく解体され、運び出される様子を、空兵たちはそばで見ている。それは一つの遠征任務を終えた後の光景ではなく、屋外テントでのCOVID-19検査業務を3月22日に終了した第374医療群の空兵にとっての重要な一幕だった。

この検査用のテントは、2020年に建てられ、パンデミックの大半の期間、横田基地内の検査専用の場所として使われてきた。24カ月の運用を経て、ようやく新規陽性者数が減少し、第374医療群が屋内で運用できるレベルとなった。

第374歯科中隊司令兼COVID-19対応チーム責任者クレイグ・ライン大佐は、「COVIDは収束していないが、現時点では基地住民の健康を大きく脅かすレベルではなくなった」「警戒レベルが下がったため、2年間設置していた検査用テントを撤去する」と撤去の経緯を語った。

同テントは、重症化しやすい人々へのCOVID-19感染リスクをなくすために、診療所の外に設置されていたが、基地住民のワクチン接種率が高まったこととCOVID-19患者数の減少を受け、検査業務を屋内に移すことが可能になった。

横田基地COVID-19対応チーム下士官監督官のケーシー・トーマス技能軍曹は、「患者は外で検査を待つ間、天候の影響を受けていた」「屋内に移動すれば、患者にとって快適になるうえ、医療用品も調達しやすくなる」と述べた。

第374空輸航空団と第374医療群は、米国疾病管理予防センターの新たなガイダンスと国防総省の方針に従うことで、横田のコミュニティは安全に生活できると確信している。

ライン大佐は、「(コロナ禍の)負担やストレスを強いられる中でも、横田のコミュニティは強くあり続けた」「迅速な空輸任務を推進する一方で、医療に従事する空兵は不平もこぼさず期待以上の働きをしてくれた。テントの解体は、何よりも日常に戻りつつあることを象徴している」と述べた。

